

平成 25 年度 議会報告会における会場での質疑応答（抜粋）

さざんか 5月10日

- Q 「避難路 3 路線、避難タワー 8 カ所」の場所はどこか。決まっているのか、未定か。
- A 避難路 3 路線は決まっている。市道大原朝比奈線、市道須々木大溝線、市道須々木 49 号線。避難タワー 8 カ所については未定。
- Q 授産施設は地域防災訓練の対象外となっているのか。就労継続支援 A 型事業所が、地域の防災訓練に参加したのは一回だけ。入居者の人数ばかり増やして、地震や津波がきたらどこへ逃げたらよいか。
- A そういった事実を知りませんでした。

牧之原市資料館 5月11日

- Q 5 地区で津波防災まちづくり計画を作り提出している。その中で、具体的に「ここには避難路が欲しい」「ここには避難タワーが欲しい」と細かに提案した。その答申を受け、その地域の要望を受けていただきたい。
- A 4 月の議員全員協議会の場で、市当局から 5 地区の集約された計画の説明があった。今後、皆さんの計画をどのように行政が集約し取り組んでいくのか、注視していきたい。自然災害であるので、できるだけ早く取り組んでもらうよう市当局に伝えていく。
- Q 配布資料に「今後は議会への市民参加を図るため、公募による市民会議を行い、議会運営に反映させていきたい」とあるが、今現在どの辺まで話が進んでいるのか。いつ頃から、このような形を進めていくのか。
- A 公募型市民会議とは、提言に向けての活動や市の問題を議会と一緒に解決に向けて考えていく組織。これについては、今年の改選前に規約を整え、改選後の新しいメンバーになったら実施していく。

トーク地頭方 5月17日

Q 津波防災避難対策はもっと追加できるか。ワークショップをやれやれ言われやった立場として、地域でまとめあげた事柄は承知しているが、市からは何も聞かされていない。

A 市長は追加でやっていきたいと言っている。

Q ジェネリック薬品について、薬局へ議員がお願いしていくことはできないのか。せっかく視察に行ったのなら知識を全部出してもらいたい。何のために視察に行ったのか。

A 病気によって医師が処方箋を出す。ジェネリックを使うと安くなるが、患者と薬局で決めることになる。医師会との関係もある、慎重にやっていきたい。

細江コミュニティセンター 5月18日

Q インターネット配信は非常にいいことであるが、いったい何人くらいの人が見ているのか。当初はどれくらいの視聴者を見込んでいたのか。費用はどの程度で、費用に対する効果は。市民へのPRは。今後も続けていくのか。

A 昨年の6月から始めている。費用は150万円ほどで、6月1,270回、9月335回、12月207回とだんだんアクセス数が少なくなってきている。ぜひ、市民の皆さんも活用していただきたい。PRについては、議会ホームページや議会だよりでおこなっている。アンケートでも知らなかったという人が73%であり、今年度も予算をとっていることからもっとPRをしていかなければならないと考えている。

Q 4月の水害の件。榛原病院付近での冠水など、何が原因で何が問題なのか、わかっているはず。わかっているながら、まだずっとそのままの形になっている。そのことについて、議会はどのように感じているのか。

A 榛原町時代からこの水害の問題は議会で取り上げてきた。3つの横に流れる川ということで非常に排水が悪い。強制排水が必要。ずっと指摘をしてきたが、今回のような大雨は30何年なかったもので、市としてはそこまで予測ができなかったというのが現状だと思う。今後、水害問題にはもう少し突っ込んだ議論をし、区からも意見をだしてもらい、議会は議会なりに皆さんの声を届けていきたいと思う。

坂部区民センター 5月25日

- Q 地震、津波、原発などの問題で、市内の企業がこの地を離れていくという話を聞くが、議会ではこれを食い止める議論をされているのか。
- A 原発問題などにより市内企業が他地域へ出て行ってしまおうようなことになると、財政が少なくなる、市税が減る、そしてこの地に住んでいる人たちの雇用の問題が非常に危惧される。困ったということで市長が提案してくるものについて議会としては議論はしているが、今現在、議会の動きとしてはあまり活発には行われていない状況。
- Q 空港関連整備事業、これについてお金がないということだが、いつからお金がなくなってしまったのか。期限を延長してほしいという要望がでているはず。それはどうなったのか。
- A 空港隣接 27 億円の中で、まだ約 9 億円しか使っておらず 18 億円が残っている。市としても少しずつではあるが坂部地区に空港隣接のお金を使いつつ、今現在まで来ているという状況。期限が切れてしまうということから、この整備は必要だから何とかしてほしいという要望書を坂部区長から市長へ提出した。出された要望書に基づき、県へ陳情をあげ、要請をかけている。

萩間公民館 5月29日

- Q 報告会 6 会場のうち 5 会場に参加した。1 会場 5、60 人で全体で 300 人。年齢も地区役員が多く若い人が少なく男性が圧倒的。意見交換含め 2 時間の報告会で、例えば静波地区は質問が少なく 20 時 05 分に終了した。時間のフル活用になるよう工夫が必要では。また、委員会報告の内容について、視察をしたとのことだが、何を学び、何を実践し、その評価はどうかということが必要ではないか。
- A ご意見として受け取らせていただく。坂部地区の会場では、女性や若い人たちも多数参加してくれた。報告内容等については参考にさせていただく。
- Q 津波防災まちづくりについて、これは沿岸部 5 地区の計画である。震度 7 の地震は内陸部でも同じで、この公民館は耐震化がされていない。29 億円の予算は、5 地区の対策費。内陸部にも目を向けてもらいたい。
- A 28 億 5 千万円の都市防災事業は津波防災事業費。もう少し具体的なものは今後示される。市全体（内陸部）の地震対策についても、議会から意見していく。皆様も、議論の場で発言してってください。